



















●マンダムグループCSR重要課題の進捗報告と今後の考働計画

ISO26000 中核主題	マンダムグループCSR重要課題(第2版)	関連するSDGsのテーマ (SDGs:持続可能な開発目標)	2018年度の主な具体的な活動	総評(一部直近までの活動を含む)	長期目標(ゴール)の設定	今後の方針と考働計画
 <p>環境</p>	<p>No. 7</p> <p>テーマ 脱炭素社会にむけた取り組みの推進</p> <p>パリ協定に基づく脱炭素社会の形成にむけた取り組みと温室効果ガス排出削減のための全拠点における取り組みの推進</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンダム単体のスコープ3を算定、CO<sub>2</sub>排出量削減ポイントを明確化。</li> <li>パリ協定、政府方針を見据えた全社CO<sub>2</sub>排出量削減目標の改訂。</li> <li>福崎工場にて新ボイラー設備の導入と、灯油からLPGへの燃料切替によるCO<sub>2</sub>排出量削減。</li> <li>省電力化設備(LED照明や変圧器の変更など)の導入推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018年度総エネルギー投入量:443,580GJ(昨対97.7%) 国内:121,481GJ(昨対95.2%) 海外:322,099GJ(昨対101.9%)</li> <li>2018年度温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)排出量 スコープ1+スコープ2:30,766t-CO<sub>2</sub>(昨対100.2%) 国内:5,781t-CO<sub>2</sub>(昨対93%) 海外:24,985t-CO<sub>2</sub>(昨対102%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2027年までに日本国内事業のスコープ1・2におけるCO<sub>2</sub>排出総量を2013年度比で26%削減。</li> <li>2050年までにマンダムグループにおけるCO<sub>2</sub>排出量を2013年比で80%削減。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの導入検討。</li> <li>省エネ推進活動の継続と拡大。</li> <li>CO<sub>2</sub>排出量スコープ3算定の海外拠点への拡大。</li> </ul>
	<p>No. 8</p> <p>テーマ 生物多様性の保全</p> <p>製品のライフサイクル全体を考慮した生物多様性への影響把握と生物多様性保全の推進</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内最多のパーム油由来原料について、「ブックアンドクレーム方式」にてRSPO認証証書の購入を開始。</li> <li>福崎工場生産製品に使用する輸送用段ボールについて、FSC認証紙への切替を開始。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブックアンドクレーム方式によるRSPO認証証書の購入実績 2018年度実績:最多のパーム油由来原料の100%</li> <li>カートンケースFSC認証紙への切替実績 2018年度実績:57%</li> </ul>	<p>2027年までに以下を達成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原料の起源となるパーム油の全量をRSPO認証パーム油とする。</li> <li>紙製容器包装の全量を認証紙とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最多のパーム油由来原料の全量分についてブックアンドクレーム方式によるRSPO認証証書の購入を継続。</li> <li>他のパーム油由来原料について、ブックアンドクレーム方式によるRSPO認証証書購入の検討。</li> <li>2020年までに段ボール全量をFSC認証紙とする。</li> <li>ペーパーレス化の継続推進。</li> </ul>
	<p>No. 9</p> <p>テーマ 循環型社会形成の推進</p> <p>産業廃棄物の循環利用のためのゼロエミッション(再資源化)の達成と定着</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>福崎工場サイト:埋立処分となる産業廃棄物の、再資源化処理可能業者を選定。</li> <li>本社サイト:産業廃棄物取引先へのゼロエミッション維持の確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物の再資源化率 福崎工場:100%、本社:100%</li> <li>ゼロエミッションの達成・維持と共に、継続的な廃棄物削減に向けた取り組みが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼロエミッションの継続達成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中味充填重量あたりの産業廃棄物量削減。</li> <li>産業廃棄物取引先へのゼロエミッション維持確認の継続。</li> </ul>
 <p>公正な事業慣行</p>	<p>No. 10</p> <p>テーマ CSR調達体制の構築と運用</p> <p>調達先CSRガイドラインの策定とサプライヤーさまへの協力要請によるCSR調達体制の構築と運用(人権・労働慣行・環境の側面も踏まえた体制構築と運用)</p>	  	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンダムグループ「腐敗行為防止方針」および「腐敗行為防止ガイドライン」を発行し、グループ全社への教育を開始。内容は日本語を含め8カ国語に翻訳。(2018年11月~)</li> <li>国内サプライヤーに対して、2回目となるマンダムグループ調達先CSRガイドライン(第2版)の理解浸透とセルフアセスメント調査を実施。(2018年12月)</li> <li>マンダムインドネシアの現地サプライヤーに対して、同調査を実施。(2019年2月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでのガイドラインとセルフアセスメント調査 国内 ・2016年9月(第1版):78社 ・2017年11月(第2版):21社 ・2018年12月:78社 インドネシア ・2019年2月:94社</li> <li>マンダムグループ調達方針の改訂には至らず。</li> </ul>	<p>(検討中)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2次・3次、海外のサプライヤーなど対象範囲の拡大。</li> <li>マンダムグループ調達方針の改定と取引先様への説明と理解浸透。</li> <li>調達先CSRガイドラインとセルフアセスメントの回答状況の確認の実施継続。</li> <li>モニタリング機能強化のための評価方法の検討。</li> </ul>
 <p>消費者課題</p>	<p>No. 11</p> <p>テーマ 生活者の安全衛生と品質への責任</p> <p>企画、設計・開発、調達、生産、出荷、販売の全ての事業活動の段階における品質マネジメントシステムの効果的な運営と継続的な改善</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>以下2件の自主回収への対応。 ・ルシードなどヘアフォーム7品にて全成分表示の誤表記(2018.7.25)</li> <li>・ビフェスタクレンジングローション数量限定企画商品での台紙誤挿入(2018.6.5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主回収発生に対しての原因追究、対応時の課題の明確化、再発防止策の策定。</li> <li>品質保証方針の改訂を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質クレーム「0」にむけたチャレンジ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回収・リコール発生防止のための品質保証サイクルの継続的な改善と強化。(PDCAにおけるチェック機能の強化)</li> </ul>
<p>No. 12</p> <p>テーマ 生活者との新たな共通価値の創造</p> <p>幅広い生活者からの声を活かすことのできるコミュニケーション体制の構築と利便性と安全性に配慮した商品企画体制の構築</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘアフォーム製品での誤使用防止を目的として、ウェブサイトに使用方法に関する動画を掲載。</li> <li>ユニバーサルフォントの採用(2019年春新商品68アイテム中65アイテム)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客さまの声を参考に商品・サービスの改善は実施したものの、生活者との新たな共通価値の創造までには至らず。</li> </ul>	<p>(検討中)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての生活者の方々が安全で安心して商品をご使用いただけるための容器・説明表記などに対するユニバーサルデザイン採用の推進継続。</li> </ul>	
 <p>コミュニティへの参画 および コミュニティの発展</p>	<p>No. 13</p> <p>テーマ 新しい社会のパラダイムの感知と貢献</p> <p>国連グローバル・コンパクトの10原則や持続可能な開発目標(SDGs)など国際社会の枠組みの社内での理解浸透と貢献にむけた考働の検討</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>関西大学高等部2年生大阪フィールドワークに協力。(2018年6月)</li> <li>大阪府立千里高等学校SGHプロジェクトの秋休み企業訪問研修に協力(2018年10月)</li> <li>WWF様に協力いただきサステナビリティ勉強会とダイアログを開催。(2018年12月)</li> <li>第92回日本薬理学会年會にてオープンイノベーション促進に向けたランチョンセミナーの実施。(2019年3月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナビリティ勉強会には64名が参加。ダイアログには選抜社員8名とオブザーバー7名が参加。</li> </ul>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国連グローバル・コンパクト(ネットワーク・ジャパン)やその他の社外団体の取り組みへの積極的な参加。</li> <li>社会・環境課題に関する勉強会とダイアログの継続。</li> <li>社内教育プログラムの検討と実施。</li> <li>GRIなど国際的なレポート・ガイドラインへの対応強化とコミュニケーション体制の充実と継続強化。</li> </ul>
<p>No. 14</p> <p>テーマ 社会との価値共創の実現</p> <p>「社会の持続可能な発展」にむけた研究機関やNGO/NPOなどとの共創関係の構築と取り組みの開始(動物実験代替法学会、大阪大学大学院薬学研究科など)</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪大学大学院薬学研究科との共同研究講座の取り組みを継続して推進中。</li> <li>大阪大学と薬学研究科で初のクロス・アポイントメント制度に関する協定を締結。(2018年8月3日リリース)</li> <li>動物実験代替法国際研究助成金公募を継続して実施。(第12回テーマ決定:2019年5月14日リリース)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪大学大学院薬学研究科との共同研究講座のこれまでの成果は以下のWEBサイトを参照ください。 コミュニティへの参画および発展 &gt; 大阪大学大学院薬学研究科との共同研究講座</li> </ul>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪大学大学院薬学研究科との取り組み継続。</li> <li>動物実験代替法学会との取り組み継続。</li> <li>課題No.13の取り組みを通じた新たな共創関係の模索と探求。</li> </ul>	